

青葉トンネル



阿寒摩周国立公園

青葉トンネルとは

“トンネル”といっても一般的な道路にあるものとは違い、木々が頭上を覆うように生い茂っている自然のトンネルで、初夏には新緑、秋には紅葉が楽しめます。

もともとは明治時代、硫黄採掘時に硫黄を運搬するために鉄道が敷かれたことから始まり、鉄道が廃線になった後は地元の人々が硫黄山へのハイキングコースや交通のために利用していました。

現在ではルートが多少変わり、硫黄山レストハウス裏からJR川湯温泉駅前までの約1.5kmの間を青葉トンネルと呼んでいます。

青葉トンネルとつつじヶ原

青葉トンネルだけでなく、川湯ビジターセンターを起点とするつつじヶ原自然探勝路を利用すれば、川湯温泉街からJR川湯温泉駅まで自然の中を歩いて行くことができます。

つつじヶ原自然探勝路では、硫黄山の影響により、イソツツジやハイマツなど、高山のような植生の移り変わりを楽しめるのが特徴です。一方、青葉トンネルは別世界のように多くの木々が茂り、足元には草花が生育しており、硫黄山の影響をあまり受けていないことがうかがえます。

2つの散策路を合わせて片道約4km、所要時間約1時間30分ほどですが、その中でも川湯独特の自然を体感できる変化に富んだコースとなっています。

カワユエンレイソウ

青々とした新緑が見どころの青葉トンネルですが、ちょうど青葉が出てきた5月中旬頃、足元には川湯の固有種であるカワユエンレイソウが花を咲かせます。

オオバナノエンレイソウとミヤマエンレイソウの交雑種と考えられており、ココならではの要因として硫黄山が関係しているのではないとも言われています。しかしながら、酸性が強く、乾いた土壌のつつじヶ原ではカワユエンレイソウは生育できないため、青葉トンネルは散策しながらじっくりとカワユエンレイソウを観察できる数少ないスポットなのです。

湯川

青葉トンネルには湯川と呼ばれる川が流れています。その源流は硫黄山の東側にあり、青葉トンネルを通った後は川湯温泉街を經由して、屈斜路湖へと流れ出ます。

硫黄山の近くから流れ出ていますが、源流部～上流部は中性で冷たい水が流れています。そのため、今では数少ないニホンザリガニも生息しています。

しかし、中流部の川湯温泉街を通ることで強酸性の温泉と混じってやや酸性となり、最終的には他の河川と合流して中和され、屈斜路湖へと流れ着きます。

川湯ビジターセンター



開館時間

4月～10月 8:00～17:00
11月～3月 9:00～16:00

休館日

毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、水曜祝日の際は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <https://www.kawayu-eco-museum.com/>

青葉トンネルで見られる花



ヒメイチゲ
(4～5月)



マイヅルソウ
(5～7月)



オククルマムグラ
(5～7月)



ゴゼンタチバナ
(6～7月)



ハルニレ
(4～5月)



カワユエンレイソウ
(5～6月)



オオヤマフスマ
(5～7月)



クサノオウ
(5～8月)



ギンリョウソウ
(6～7月)



シウリザクラ
(5～6月)



カキドオシ
(5～6月)



エゾノクサイチゴ
(5～7月)



ツマトリソウ
(6～7月)



オオバスノキ
(6～7月)



ノリウツギ
(7～8月)